



ふなやま けいこ
船山 恵子
(富岳会)

災害に対応した都市づくりについて

問 災害時市内において地域的に被害が甚大などところに対して、被害が少ない自治会から支援ができるように、区長会において連携していると聞かすが、どのような体制になっているか。

部長 富士宮市区長会が富士宮市区長会災害支援協定を、平成28年12月12日に締結しており、協定の内容は被災した区の区長が属する区長会の支部長を通じて、富士宮市区長会長に支援を要請することになっている。

問 安全確保のために自治会の役割は大きいと考えるが、自治会の加入率は全国的に低下している。富士宮市内125区の5年間の推移はどうか。

部長 平成30年71.5%、令和元年70.7%、2年70.1%、3年70.0%、4年69.7%とわずかずつで

あるが、低くなっている。

問 自治会加入の最大のメリットは防災面で協力し合えること、富士宮市のためにも自治会に入っていただきたい。啓発しているとのことだが、それ以上のことは考えているのか。

部長 自治会は行政にとってすごく大事な団体となる。地域コミュニティの中核的な存在が自治会であり、行政にとっては安心安全の確立のために、その活動はすごくありがたい。自治会を持続可能な団体にするためにどうしたらいいかを今、関係課、衛生部門、環境部門、市民生活部門、企画部門、教育部門を含めて、議論をしている。継続するために、こういうやり方もあるのではという情報は、国等からのものも含めてたくさん来ている。そういった情報の提供、DX化、閲覧板をラインでもできるし、しているところもある。そういった二段構えの形もあると思っている。自治会そのものの部分をしっかり形に、まずは内部で整理をしている。



むらせ ひとし
村瀬 旬
(至誠)

菩提寺もなく、墓をみてる子孫もいない市民のための、市営の永代供養墓地及び納骨堂の建設について

問 県内自治体の調査結果についての感想は。

部長 静岡市営納骨堂と袋井市営樹木葬墓地を視察した。静岡市は平成7年に設置し、1か所に一緒に収蔵する方式で永年収蔵可能数は1万7000体。袋井市は、県内初の市営樹木葬墓地に1区画に御遺骨を2体まで埋葬する方式で1000区画。いずれもお骨を骨壺から納骨袋に入れ替えて収納及び埋葬を行っている。メリットは、収納時及び埋葬時に永代使用料を払うと、その後の管理料が不要となるため、墓地を管理する方がいなくても管理の懸念がないこと。デメリットは、後にお骨を取り出すことができないことや見知らぬ方と合同埋葬になる苦情などがあり、建設に

あたってはこれらの課題について検討する必要がある。また、令和5年2月に富士市に合葬墓地が完成したので、調査を行う。

市長 市としても、ふさわしいものを建設しなければならないと思っているが、慎重に判断し時間をかけて建設に臨みたいと考えている。

生活保護費を不正に受給している市民の調査及び実態について

問 令和元年度から4年度までの実態について。

部長 令和5年2月までで、件数は37件。金額は903万7353円。

問 調査の対象者は。

部長 全ての受給者と前年度に生活保護廃止となった受給者。

問 不正受給者は自覚しているのか。また、罰則規定はあるのか。

部長 認識している。罰則ではないが徴収する金額に40%を乗じた額を別に徴収でき、過去2件ある。不正受給には厳正に対処する一方、生活保護者に寄り添い自立につながる支援を行う。